

## 柏崎刈羽原子力発電所視察

1月29日、長谷川閑史代表幹事をはじめとする幹部14人が柏崎刈羽原子力発電所の視察を行った。当日は、東京電力の廣瀬直己代表執行役社長も同行し、津波による浸水防止対策、電源機能の確保、事故の拡大防止対策、緊急時対応力の強化を目的とした訓練など、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた安全対策についての説明を受けた。

視察後、長谷川代表幹事は「電気料金の上昇が、企業競争力の成長を妨げるボトルネックの一つとなっている。再稼働することによって、低廉な電力の安定供給に努めていただきたい。

い。そのためには、原子力規制委員会の定める新規制基準の安全審査に適合することが前提であるが、地元自治体や住民との信頼関係、安心感を醸成していくことが何よりも肝心だ」と語った。



海拔約35mの高台に配備されている空冷式ガスタービン発電機 (GTG)による発電機の起動訓練を視察。バックアップの電源車も多数配備されており、緊急時の速やかな電源供給が可能となっている。



原子炉格納容器内の一部。



7号機オペレーティングフロアにて水素処理設備等を視察。

質疑応答の様子。



中央制御室ギャラリー。



免震重要棟で、緊急時対策本部における総合訓練を視察。